

腐り切った組織の実態を継続してウオッチする 第五十五弾

神社本庁再生への道―その十八

荻原総長・西高辻副総長の新体制誕生を事務局が妨害 打田会長の三選で神道政治連盟は自壊か

評議員会は厳しく執行部を追及

などと神社本庁を貶め、神社信仰の伝統と尊厳性を損なうような主張を繰り返した。

藤原登(フリーライター)

五月二十六日から三日間にわたり開催された神社本庁評議員会。六月六日付の神社新報は、

五月二十六日から三日間にわたり開催された神社本庁評議員会。六月六日付の神社新報は、

社庁長の荻原氏を指名し、これも庁内に定められた通り、新総長の荻原氏の意見を踏まえ、副総長に福岡県神社庁長の西高辻氏を指名した。これで新体制が

た。にも拘らず打田会長が三選を果たせたのは、選挙委員の中に、打田氏の統投で神政連を機能不全状態に陥らせた上で打田氏を失脚させ、田中・打田両氏を排除した上で神社本庁問題の完全解決を目指す、謂わば、隠れ反田中・打田勢力関係者が複数いたのではあるまいか。

不正を隠蔽する目的で職員二名に不当な懲戒処分を下した。処分の無効を求めて提訴されると、被告となった神社本庁は一審で全面敗訴したが、反対の声を押さえて控訴、上告へと突き進み、四年半にもわたり神社本庁の時間と予算を浪費し続け

はすんなり理事に当選した。田中氏が総長五選を目指す理由は、田中氏が総長でなければ身が危くなる人達による「共同正犯」のようなものだろうが、驚愕すべきは閉会式であった。田中総長は質問される心配のない閉会挨拶において、二十分以上にわたり田中執行部を批判した評議員に対し、脅迫めいた言葉を吐きつつ自己弁護に努めたというのだから狂気の沙汰だ。

臨時役員会で事務局が起こした事件

臨時役員会が、全国評議員開が注目されるが、全国評議員の意思と鷹司統理の決意は固い。間もなく崩壊間近の田中打田体制に大鉄槌が下されるで

が職員に課した懲戒処分が認められなければ、「国体が破壊される」「信教の自由が侵される」

そして、最終日に行われた任期満了に伴う理事選挙で田中氏

先にも述べたように、鷹司統理は総長に北海道神

のぼる)

期満了に伴う理事選挙で田中氏

先にも述べたように、鷹司統理は総長に北海道神

のぼる)

のぼる)

先にも述べたように、鷹司統理は総長に北海道神

のぼる)

のぼる)

のぼる)